

産業建設委員会記録

令和4年6月27日(月)
午前9時58分～11時44分
全員協議会室

- 【委員】川上委員長、田畑副委員長
沖田委員、串崎委員、上野委員、布施委員、牛尾委員
- 【委員外】肥後議員、大谷議員、佐々木議員、西田議員
- 【議長団】笹田議長
- 【執行部】砂川副市長
(産業経済部) 佐々木産業経済部長、大屋商工労働課長、大谷産業振興課長、
官澤農林振興課長、岡田農林振興課普及支援担当課長、永見水産振興課長
(都市建設部) 戸津川都市建設部長(事務取扱建設整備課長)、倉本維持管理課長
(弥栄支所) 馬場弥栄支所長、三浦産業建設課長
- 【事務局】大下書記

議題

1 陳情審査

- (1) 陳情第44号 いろいろな規定が玉虫色である陳情について 【賛成多数 採択】
- (2) 陳情第45号 水産加工団地を浜田市の公共下水にするという陳情について
【賛成多数 採択】
- (3) 陳情第46号 危険処理の際、所有者に請求する費用に整合性があるかという陳情について
【賛成全員 採択】

2 所管事務調査

- (1) 有機米産地づくりプロジェクトアイガモロボット放鳥式について 【農林振興課】
- (2) 燃油価格の高騰について 【産業振興課】
- (3) 水産加工団地の下水処理の状況について 【水産振興課】
- (4) 建設に関する要望の内容・件数について 【維持管理課】
- (5) プレミアム商品券について 【商工労働課】

3 議案第43号 浜田市浜田漁港水産物荷捌所条例の一部を改正する条例について

4 議案第45号 指定管理者の指定について(浜田市ふるさと体験村施設)

5 議案第48号 市道路線の廃止について(今福82号線外)

6 執行部報告事項

- (1) 地域おこし協力隊の委嘱について 【商工労働課】
- (2) 漁業別水揚げについて 【水産振興課】
- (3) 海老谷残土処理場の整備状況について 【建設整備課】
- (4) 市道の廃止・認定の状況について 【維持管理課】
- (5) 浜田市ふるさと体験村施設の再開に係る進捗状況について 【弥栄支所産業建設課】
- (6) その他

7 その他

- ・【要望書】燃料価格高騰に伴う燃料コストへの支援に関する要望書(委員会に配布)

8 はまだ議会だより読者アンケートに寄せられた意見等への対応について

9 産業建設委員会の取組課題について(委員間で協議)

【議事の経過】

[9時 58分 開議]

川上委員長

本日出席委員は7名で定足数に達しているので、直ちに委員会を開催する。

1. 陳情審査

川上委員長

付託された3件について審査する。採決は審査終了後にまとめて行う。また、執行部に対してはあくまでも審査の参考とするための現状等の確認にとどめていただくようお願いする。

(1) 陳情第44号 いろいろな規定が玉虫色である陳情について

川上委員長

参考のため執行部に確認しておきたいことがあるか。
(「なし」という声あり)

(2) 陳情第45号 水産加工団地を浜田市の公共下水にするという陳情について

川上委員長

これは所管事務調査の(3)水産加工団地の下水処理の状況についてという項目があるため、これをまず説明していただく。

2. 所管事務調査

(3) 水産加工団地の下水処理の状況について

水産振興課長

陳情第44号、45号に関連するので水産加工団地の下水処理状況について説明する。資料を見てほしい。
(以下、資料をもとに説明)

川上委員長

ただいまの説明について委員から質疑はあるか。

田畑副委員長

会費について。細かい規程や規約が何もないので、なぜこのようになったかわからないとのことだった。下水なのに均等割りや面積割があること自体が問題ではないかと思う。本来なら下水メーターを通過した流量だけ下水量がかかる。規程がないなら新たに作ったほうがよいのでは。

水産振興課長

建設当時、スタートはやはり受益者負担ということでいろいろ考えられ、こういう形になり、それがずっと生きている。毎月のように排水量も各事業者に送られてくる。毎年総会もやっている。会費規程について毎年説明しているわけではないが、総会で全体予算についても説明させていただいている。近々でいえば平成24年4月1日に公益法人に移行した際、改めて会費規程を資料としてお示しし、全会一致で承認いただいている。会費規程そのものがどうかについては、会員内部でよく議論することになろうかと思うが、会員の意向を聞いて今後必要があれば検討していくことになるかと思う。

田畑副委員長

会員の皆がこれで満足しているならそれで結構だが、一般的に考えればおかしい。話が出れば、明確な規約がないなら本来の方向性に導くことは担当課として指導してあげないとまずい気がする。

川上委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(3) 陳情第46号 危険処理の際、所有者に請求する費用に整合性があるかという陳情について

川上委員長

参考のため執行部に確認しておきたいことがあるか。

(「なし」という声あり)

これから陳情3件の採決を行う。採決前に自由討議を行うべき案件があるか。

(「なし」という声あり)

では採決に入るが、1人ずつご意見を伺いたい。なお、不採択という言葉が聞き取りにくいので、賛成か反対か、または継続審査とするかを発言し、その理由も述べていただくようお願いする。継続審査の場合は継続審査とすべきかを諮るため先に発言していただくようお願いする。

○陳情第44号 いろいろな規定が玉虫色である陳情について

委員のご意見を伺う。まず継続審査の希望があるか。

(「なし」という声あり)

では順番に発言をお願いする。

牛尾委員

1から3行目、三セクの指針にこういうことがはっきり書いてないし、陳情書の趣旨が、実態と乖離がある。ゆえにこの陳情には反対する。

川上委員長

暫時休憩する。

[10時19分 休憩]

[10時20分 再開]

川上委員長

委員会を再開する。先ほどの第44号について、続いてご意見ををお願いする。

布施委員

この陳情書には不確定な部分が結構見られる。設立当時の積算根拠でもって負担割合があるとか、今は解決している部分もあり、この陳情書内で「そのとおり」という言葉が水産振興課長からあったのだが、そういった部分も含め、玉虫色部分はきちんと精査して改めるべきだと思う。検討してほしいという陳情なので、私は賛成する。

田畑副委員長

賛成する。先ほど会費徴収で面積割などいろいろあったが、会員の皆が理解した上で運営されているのだという認識をもとに賛成する。

沖田委員

陳情の願意が理解できたため賛成する。

串崎委員

会費等の規程もあるが30年前のルールであやふやな面も書いてあるのだろう。聞けば総会もされているようであり、早い話が管理センターと会員とが話をすべきというのが一番大きなところだと思う。この内容については管理センターと会員とで再考していただきたいという、書いてあること自体は間違いはないと感じるため賛成する。

上野委員

私も賛成である。30年以上たっているため現在のルールに合っ

川上委員長

たものをつくっていかねばいけない。

採決に入るが反対の方は反対意見を公表する部分があるため、後ほどお書きいただくようお願いする。

本陳情について採択とすることに賛成の方の挙手を求める。

《 賛成者挙手 》

挙手多数。よって本陳情は採択とするものと決した。

○陳情第 45 号 水産加工団地を浜田市の公共下水にするという陳情について

牛尾委員

1人ずつご意見を伺う。

反対である。水産加工団地の運営協議会、団地の下水処理は、水産加工業の関係のためにつくった、水産庁の補助も入った事業であるので、し尿は流してない。もう一つはキャパが決まっているため、公共下水にすることは不可能である。いわゆる公共下水とは違う、水産加工団地の処理場、受益者負担の施設なので、これを一緒にするのは端から無理だと思う。よって反対する。

布施委員

私は、さらによりよい方法を見つけてほしいということで、話し合いにより会員の理解のもとで進められると思う。理事会、総会で料金改定もする必要があるかもしれないが、これについてはよりよい方法を見つけてほしいという願意があるので、それに向けて検討するのはやぶさかではないため賛成する。

田畑副委員長

結論は賛成したい。そうはいつでも一般し尿と加工団地から出る排水問題は種類が全然違うと思う。受益者管理がよいのか浜田市下水道部が管理するのがよいのか、ということも含め、今後よりよい方法を見つけてほしい。

沖田委員

施設運営については少しどうかと思う部分もあるが、ただこの願意は、よりよい方法を検討してほしいということなので、それはそのとおりにか理解するので賛成する。

串崎委員

水道料を安くすれば一般財源からの繰り入れという形で難しい面も出てくるのだろう。管理センターと会員との話をするべきだと思うし、会員の意向もあるのではと思う。しかしこの陳情はよりよい方法を見つけてほしいという内容なので賛成する。

上野委員

私も賛成する。ここに書いてあるように、よりよい方法を見つけてほしいということと、年数もたっているので再度検討してみられたらと思う。

川上委員長

では採決に入る。本陳情について採択とすることに賛成の委員の挙手を求める。

《 賛成者挙手 》

挙手多数。よって本陳情は採択とするものと決した。

○陳情第 46 号 危険処理の際、所有者に請求する費用に整合性があるかという陳情について

上野委員

1人ずつご意見を伺う。

これからこういった問題が起きる市の対応、書いたものがあれ

ばこういう問題は起きない気がする。わかりやすい何かをつくるためにはこのことも必要ではないかと思ひ賛成する。

串崎委員 倒木関係は道路法 49 条、建物の関係は行政代用法という話だった。市はこれに基づき対応されていると理解しているが、これに書いてあるように費用の問題などいろいろ出ているので、精査も大事ではないかと思う。この陳情には賛成する。

沖田委員 こういう問題は今後もまた起きるかと思う。その時にきちんと説明していただきたいというのは理解できるため賛成する。

田畑副委員長 賛成する。危険木と負担、この関係をもう少しわかりやすく説明してあげる仕組みをつくっておかなければならないため賛成する。

布施委員 願意が二つ読み取れるが、所有者負担の整合性、道路管理は浜田市、倒木や工事などの関係で道路に影響があった場合は工事関係者が一部負担するという法律があるが、この部分は法律でもある程度決まっているので、その分について整合性はあると思ひているが、危険と負担の関係などわかりやすく説明するようにと。わかりやすく説明することは必要ではないかと思ひている。願意は賛成する。

牛尾委員 賛成する。神社参道に危険木があり、下に民家があつて危ないから何とかしてくれというお願いを当局にしたら、神社仏閣等の関係はできないと断られた。しかし結果として切ってもらったのでありがたいが、私自身が間に入って汗をかいたのに結果が出なかった。当局の統一的な見解がないと、議員は市民から当てにされるので困った。よつてこの陳情には賛成である。

川上委員長 では採決に入る。本陳情について採択とすることに賛成の委員の挙手を求める。

《 賛成者挙手 》

挙手全員。よつて本陳情は採択とするものと決した。なお、陳情第 44 号については委員からよりよい方策を検討されるよつにという意見がついている。陳情第 45 号についても同等の意見が出ている。第 46 号は市民に説明しやすいよつにしたいという説明がついているので、十分よろしくお願ひする。

以上で議題 1 を終了する。

2. 所管事務調査

(1) 有機米産地づくりプロジェクトアイガモロボット放鳥式について

川上委員長 執行部から説明はあるか。
(「なし」という声あり)

串崎委員 委員から質疑はあるか。
田植え後から 3 週間とのことだが、生産者の声、並びに今後の対応について伺う。

普及支援担当課長 現在田植えから 3 週間を過ぎた田んぼについてはアイガモロボットを引き上げている。田んぼごとに土質が違ふことから、抑草効果についてはまだしっかり見えてこない。とはいへ草が若干出

- てきているので、それは島根県の除草機で対応している。生産者は半信半疑の部分もある。今後の対応としては、アイガモロボットの効果を十分に出せる対応も検討したい。土を巻き上げることが大切である。県内や全国でも実証実験をしているが、土を巻き上げやすい水田だとより効果が出るようなので、土づくりを島根県とともにやっていきたい。
- 串崎委員 この件は新聞にかなり載っていた。皆も興味関心があるので逐次報告していただきたい。
- 布施委員 テレビでは岡山の実証実験を大々的に報道していた。全国で何か所が実験場になっているか、弥栄の実験は何年計画か。
- 普及支援担当課長 全国で何か所かは井関農機から聞いてないが、200台を実験投入して効果をデータとして持ち帰りたいらしい。中山間地域や水田の大きな平場の地域など、同じロボットでも必要性が異なる。来年に向けて精度を高めたいのだろう。
- 布施委員 実証実験期間はどのくらいか。
- 普及支援担当課長 年数は定めていない。来年度からは井関農機は販売に移るとのことで、うちは連携協定を結んでいるため、この効果をどれだけ有機米産地づくりに向けられるかを一緒に取り組もうと思っている。
- 牛尾委員 生きたアイガモとロボットの違いはどこにあるか。機械化が進むと機械代がかかって困るとい声農家から圧倒的に上がっている中、アイガモロボットを導入するとなると米づくりのコストがかさんでくる。しかし売価は下がってきている。その整合性をどのように考えるか。
- 普及支援担当課長 生きたアイガモとの違いについては、先般行われた放鳥式に参加した小学生からも同様の質問が出た。生きたアイガモだと餌付けなどが必要だが、ロボットはソーラーパネルで動くので人の手がかからない。スマート農業の導入を一つの目的として走らせていきたい。
- 導入コストと売価の話もあったが、米価が年々下がっており昨年は5千円台になった。有機米の売価は1万2千円を想定している。それが最終的にどう変わってくるかはまだ見えないが、アイガモロボットを導入しても効果が出せるように。加えて、有機農業の場合は除草作業が通常5倍くらいかかるので、その負担をアイガモロボット導入によって軽くしたい。
- 牛尾委員 奥島根弥栄米がよい金額で売買されているのは知っている。そういうことからすると、ロボットを使うより生きたアイガモを使うほうが、より付加価値がつくような気がする。課長はどう思われるか。
- 普及支援担当課長 本物のアイガモのほうがより親しみやすいとは思っている。最終的に売る段階でどちらのほうが消費者に向けたPR効果が高いか、もしかしたら本物のほうが上回るかもしれないが、持続的なところを企業と見据える中、アイガモロボットをしっかりと使っていきたい。

田畑副委員長
普及支援担当課長

アイガモロボット1台幾らか、何キロあるのか。
販売価格については、まだ製造段階で公表されていない。井関農機も、高額だと誰も導入できないのでなるべく安価に、不要な装備はそぎ落としていきたいと話しておられた。

重さは10キロ程度。大きさが縦120センチ横90センチなので、もし持ち運ぶなら2人がかりくらいだと思う。1枚の田んぼに1台が動き続けるという想定なので、持ち運ぶことはほとんどないだろうが、1人で運べないサイズではある。

田畑副委員長

聞くとところによると30万円くらいするらしい。農業従事者がこれだけ高齢化してくると、1人で持てないようなロボットにそれだけの投資をしてまで米をつくるか。販路を持っている人ならば、持てない人は有機米でも1万円は取れない。そうなれば過大な設備投資をするより生きたアイガモのほうがよい気がする。助成するといっても限度がある。これ以上農業に手を加えるのはなかなか考えにくい状況だと思うのだが、その辺は考えておられるか。

普及支援担当課長

1枚の田んぼに30万円をどうぶち込むのだということだと思うが、70アールまで使える想定のものである。7反に1台入れるのと、1反に1台入れるのでは当然経費が違ってくる。中山間地向けのモデルを井関農機に今後検討していただきたい、その中で価格を落としていただきたいとは思っている。最終的に農家がどう考えられるかは検討していきたい。販売についても、販路を持ってない農家がこれを導入するのは厳しいというのはおっしゃるとおりだと思うので、県を含めて対応させていただきたい。

川上委員長

ほかに。

(「なし」という声あり)

(2) 燃油価格の高騰について

川上委員長
産業振興課長

執行部から説明をお願いします。

燃油価格の各業界の様子については産業経済部と都市建設部担当課からの情報を取りまとめ、物流運送業、商工業、農林業、水産業、観光業、建設業と六つのカテゴリーに分けた。記載にあるとおり燃油高騰の影響を直接的に受けている業種、また原材料費、包装資材、食糧費など間接的な影響を受けている事業者もある。いずれの業種も燃料価格高騰後すぐに価格に転嫁するのが難しいため、経営を圧迫している状態である。

川上委員長
串崎委員

委員から質疑はあるか。

商工業は2番目の項目は検討していると書いてある。水産業は2行目に補填発動していると書いてある。建設業は価格反映などで対応しているとある。ほかは状況を言い切っているが、その辺は対応策がないのか。状況は。

産業振興課長

対応策は国において地方創生臨時交付金などを拡充すると打ち出されているので、浜田市としても今後国や県の支援を補完しながら必要な支援策を考えていきたい。

串崎委員
川上委員長

それはわかるが、もし対応策がないなら結構だが。
この表について、対応策が検討されているなら「こういうことを検討している」と書いて、再度提出いただければ。よろしくお願ひする。

産業振興課長
川上委員長

承知した。
ほかに。

(「なし」という声あり)

(4) 建設に関する要望の内容・件数について

川上委員長
維持管理課長
川上委員長
田畑副委員長
川上委員長

執行部から説明をお願いする。
(以下、資料をもとに説明)

委員から質疑は。
進行を交代する。

こうして見るとどうも未処理件数が非常に多いような気がする。これまでも維持等についてはなかなか予算がつけづらく、仕事もしづらかったと思うが、これだけ未処理件数があるということは、その部分にもう少し目を向ける必要があると思うが、課長はどう思われるか。

維持管理課長

現在も直営できるところはなるべく直営で職員がかなり頑張っているが、おっしゃるようにならざるも予算不足で対応ができなかったり、規模が大きくなると対応が難しいということは実際にある。

田畑副委員長
川上委員長

進行を交代する。
ほかに。

(「なし」という声あり)

(5) プレミアム商品券について

川上委員長
商工労働課長

執行部から説明をお願いする。
調査依頼のあった7項目のうち、保管あるいは輸送に関する経費については若干被るため、資料には6項目上げている。
(以下、資料をもとに説明)

川上委員長
布施委員

委員から質疑は。
6番の統括管理及びその他必要な業務について、販売手数料。ここで応援チケット1枚につき3%、1枚あたり15円の手数料。14枚で1冊あたり210円。基本的には4冊販売すると手数料が大体800円くらい。同じように販売された手数料は1冊あたり77円で、4冊で308円になる。なぜこのような差をつけているのか。
浜田市観光協会も販売初だったが、トータル何セット売ったかわからないが、業務管理などこの部分についてなさったと思う。観光協会ではどのくらい売り上げがあったのか。

商工労働課長

まず郵便局との販売手数料の差については、これまで郵便局を除く金融機関は飲食応援チケット等も併せて1枚15円とさせていただいていた。今回新たに郵便局をお願いするにあたり、販売委託契約を結ぶ際、1冊77円でとお願いされたため、差が生じ

た。

観光協会の販売事務手数料だが、観光協会特産品販売所等も含めて手続きしていただいたので、おおむね 5、6 千冊だろうと思うが最終的に集計してないため、集計後にまた報告する。

市民に喜ばれるためには平等・公平で、市民優先販売までしたのだから、やり方はまた考えてもらいたい。手数料については再考してほしい。手数料を抑えることで販売冊数を増やしたりいろいろなことができたのでは。急いでやった印象がある。1冊当たりの手数料の根拠は事前に検討したのか。

根拠云々については事前に実行委員会で話をしてこういった形になった。今回へのご意見もいただいているので、次回第2弾を検討するが、全体のやり方、金額面、できるだけそういったところを抑えて冊数を増やすといったことは検討していきたい。

進行を交代する。

郵政においては逆に手数料が安いのが、私の知っている簡易郵便局では、その売り上げが窓口業務1日の売り上げを2、3時間で賄ったと。非常にありがたかったと報告を受けている。つまり通常の窓口業務に加えてこれを売り上げることで、1.5倍以上の窓口業務売り上げになったと考えている。手数料はこれでよかったのか疑問が残っている。ぜひこれも今後検討していただきたい。

販売店に集中したということで、この手数料が売り上げにつながったところもあれば、そこまででなかったところも当然ある。これまでもご意見をいただいているので、その辺はまた改めて、もし第2弾を進めるに当たっては検討していきたい。

1冊10枚数えて渡す約束になっているのが、実情は数えずに渡したところもあったようである。これも約束事は約束事のように。これだけ高い手数料ということは、その部分が反映するのだろう。これも今後改良していただきたい。

進行を交代する。

ほかに。

(「なし」という声あり)

ここで暫時休憩する。再開を11時15分とする。

[11時04分 休憩]

[11時13分 再開]

3. 議案第43号 浜田市浜田漁港水産物荷捌所条例の一部を改正する条例について

川上委員長

執行部から補足説明があるか。

(「なし」という声あり)

委員から質疑はあるか。

(「なし」という声あり)

4. 議案第45号 指定管理者の指定について（浜田市ふるさと体験村施設）

川上委員長

執行部から補足説明があるか。

(「なし」という声あり)
 委員から質疑はあるか。
 (「なし」という声あり)

5. 議案第48号 市道路線の廃止について（今福82号線外）

川上委員長 執行部から補足説明があるか。
 (「なし」という声あり)
 委員から質疑はあるか。
 (「なし」という声あり)

6. 執行部報告事項

(1) 地域おこし協力隊の委嘱について

川上委員長 執行部から補足説明があるか。
 (「なし」という声あり)
 委員から質疑があるか。

布施委員 現在活動されている方が紹介されているが、これは順次研修を行っていて、1店舗につき期間や取り決め事項があるのか。

商工労働課長 料理人育成事業は受け入れ事業者が七つある。最初の1年半で一つの事業所にて2か月程度かけて修行に入っていただく予定で進めている。

布施委員 その間で研修してスキルアップしていったとき、次の段階について研修中にヒアリングしたり、料理とは別に浜田市への定住相談なども併せてやっているのか。

商工労働課長 七つの事業所でそれぞれスキル等を学んでいただき、3年のうちの残り1年半で、七つの事業所と本人の希望があれば1か所を1年半かけてしっかり研修していただく。その後そこに残られるか、浜田市内で飲食店等を開業されるのか、こちらも相談をさせていただきながら3年後にどうするかを決めていただく。その3年間で我々もできるだけサポートする。

布施委員 地元に残っていただくためにも定住関係の部署と横断的な連携が必要だと思う。残り1年半で定住に向けて話し合うスケジュールがあるのか。

商工労働課長 今研修中の方には市も当然かかわっていく必要がある。私も前は定住の部署にいたし、今の定住関連部署とも必要に応じて話をしながら進めていきたい。

川上委員長 ほかに。
 (「なし」という声あり)

(2) 漁業別水揚げについて

川上委員長 執行部から補足説明があるか。
 (「なし」という声あり)
 委員から質疑があるか。
 (「なし」という声あり)

(3) 海老谷残土処理場の整備状況について

川上委員長
都市建設部長

執行部から補足説明があるか。
これは中国電力第2基の造成に伴う残土を受け入れるということで、現在13万から15万立米を想定している。事業費も5.5億円で、これも搬入にかかる負担として中電からいただく予定である。

川上委員長

委員から質疑があるか。
(「なし」という声あり)

(4) 市道の廃止・認定の状況について

川上委員長

執行部から補足説明があるか。
(「なし」という声あり)
委員から質疑があるか。
(「なし」という声あり)

(5) 浜田市ふるさと体験村施設の再開に係る進捗状況について

川上委員長
弥栄産業建設課長

執行部から補足説明があるか。
施設改修については辺地債を活用するよう今後進めていく。地元の取り組みについては、ジェイアール東日本企画に今月から入っていただき、本格的に事業が開始されている。来年4月に向け市も連携、サポートしていく。

川上委員長
沖田委員

委員から質疑があるか。
6月25日に令和4年度のキックオフミーティングが開催され、事業スタートに当たっての合意形成・意識共有が行われたようだが、どのような様子だったか口頭で結構なので教えてほしい。

弥栄産業建設課長

先週土曜日にキックオフミーティングが開催された。参加者は弥栄みらい創造会議、地域住民を含め35人が参加した。第1部は、倉敷市で古民家改修に取り組まれている方を講師にお招きし、1時間ほど講演いただいた。その後参加者でワークショップを午後5時まで5班に分かれて行った。浜田市内も含めてどういう地域資源があるか洗い出しをした。4回シリーズのワークショップを行い、具体的な運営機構に結びつけていく計画である。

沖田委員

例えばワークショップで出た意見、地元の方の意見をもう少し詳しく教えてほしい。

弥栄産業建設課長

今回はまだ洗い出しだけで、まとめるところまでいかなかったが、地域資源でいうと弥栄の自然条件に伴うもの、田舎らしい手作りのものが技も含めてあるということ、浜田・弥栄という地域がどういう地域かの洗い出しもされ、中山間で条件不利地だが生かせる個性はあるといったことを共通認識した段階で終わっている。

田畑副委員長

来年4月1日オープンを前提に物事が進んでいる。工程表からいくと工事が全然示されていない。特にトイレ工事、中の電気・水道等の進捗状況。発注してどの程度進んでいるか。

弥栄産業建設課長

工事については今回の財源の話もあったため、まだ発注してい

田畑副委員長 ない。今回議会への説明が終わった後に発注をかけ、順調に行けば8月頭あたりで発注となろうかと思う。工期は約6か月を見込んでいるため、1月末くらいには工事を終え、2、3月で試運転や業務の準備・引き継ぎを行い、4月オープンという流れになろうかと思う。

弥栄産業建設課長 9月から始めても半年。特に体験村のある地域においては天候の問題含めて本当に間に合うのか。

川上委員長 そのあたりも建築住宅課と相談し、ある程度しっかり余裕を取った上での工期で進めたい。雪は多少心配だが、何とか順調に進むようやっていきたい。

ほかに。
(「なし」という声あり)

(6) その他

川上委員長
商工労働課長

執行部から何かあるか。
道の駅ゆうひパーク浜田の件で少し報告したい。4月15日にいただいた市への要望に基づいて公設民営化に向けて参考とするため、本定例会議においても取得価格について不動産鑑定予算等を上程させていただいている。

川上委員長

また同じく要望にあった借入金返済猶予の期限延長については、5月30日の全員協議会での資料をもって説明させていただいたが、引き続きコロナの影響等で経営が厳しい状況が見受けられるようなら返済の延長は必要だろうと、市としても考えている。

そうした中、6月30日にバンクミーティングが行われる予定である。市として借入返済の延長期限については必要だとお示しし、協議をさせていただく予定である。ご承知おきいただきたい。

このことについて委員から何か聞いておきたいことがあるか。
(「なし」という声あり)

商工労働課長

ここで執行部からの報告事項5件プラスその他について、6月30日の全員協議会へ提出し説明すべきものを決定するため、まず執行部の意向を確認したい。

川上委員長

(5)の浜田市ふるさと体験村施設の再開に係る進捗状況についての1点を全員協議会にてご報告、説明させていただきたい。

執行部の意向が示された。委員から何かあるか。
(「異議なし」という声あり)

ではそのように願います。

7. その他

・【要望書】燃料価格高騰に伴う燃料コストへの支援に関する要望書(委員会に配布)
川上委員長

執行部から何かあるか。
(「なし」という声あり)

牛尾委員

委員から何かあるか。
地元の6月18日の新聞だが、島根県と民間会社が一緒になって美肌観光に力を入れる。島根県の温泉宿14施設のお湯をとい

副市長

うので。江津も益田も載っているのだが美肌となると僕らは美又温泉を連想するが、浜田市は入ってない。島根県とポーラの科学的裏付けとあって相当な影響が期待されるのに、浜田市が載ってないのはどういうことか理解できない。今日何も説明がないので素通りなのか。

牛尾委員

牛尾委員のご指摘はごもつともである。私もこの新聞記事を見たときに同じ思いを持ち、金城支所産業建設課長に照会した。どうも、これは昨年度に県がやっている美肌事業に取り組んだ結果を載せたもので、浜田市は今年度と同じ事業をやっている。これはあくまでも昨年に事業をやったところ。例えば美又温泉なら、温泉全体ではなくその中でも取り組まれた個別の旅館だけを引っ張って出したと。令和3年度の当該事業を使われたところのみのデータを出したらしく、決してやってないわけではない。

川上委員長

例えば一般市民や対外的には、浜田市は何をやっているのかと言われるだろう。美肌ならここに出ている施設以上に金城のあそこの温泉だけとは思っているのに載ってない。全国から人が大移動する時期に載ってないのは、担当課の怠慢ではという印象を持つ。微に入り細に入り気を使ってもらいたい。新聞の効果は大きい。こういう仕事がうまくいこうがいくまいが公務員の給料には反映しないから気にならないかもしれないが、地域の企業を元気にするのは僕らの仕事なので、十分気をつかっていただきたい。非常に残念な思いがした。答弁は要らない。

ほかにないか。なければ私から。燃料コストに関する要望書が議長宛てに提出されている。このことはタブレットに配信しているのでご確認願う。

ここで執行部は退席されて結構である。休憩を入れる。

[11時35分 休憩]

[11時36分 再開]

川上委員長

委員会を再開する。これから採決に入るが、委員間で自由討議が必要だと思える案件があるか。

(「なし」という声あり)

ではこれより執行部提出の議案3件について採決を行う。

○議案第43号 浜田市浜田漁港水産物荷捌所条例の一部を改正する条例について

本案は原案のとおり可決すべきものと決することにご異議ないか。

(「異議なし」という声あり)

ご異議なしと認め、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決した。

○議案第45号 指定管理者の指定について (浜田市ふるさと体

駿村施設)

本案は原案のとおり可決すべきものと決することにご異議ないか。

(「異議なし」という声あり)

ご異議なしと認め、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決した。

○議案第48号 市道路線の廃止について(今福82号線外)

本案は原案のとおり可決すべきものと決することにご異議ないか。

(「異議なし」という声あり)

ご異議なしと認め、全会一致で原案のとおり可決すべきものと決した。

以上で産業建設委員会に付託された議案の審査は終了する。委員長報告については正副委員長に一任でよろしいか。

(「異議なし」という声あり)

では6月30日の採決までに作成し、タブレットに入れておくのでご確認願う。それでよろしければ委員長報告をその内容で行いたいののでよろしく願います。

8. はまだ議会だより読者アンケートに寄せられた意見等への対応について

川上委員長

前回皆に了承いただいたので、正副委員長で改定案を作成している。この案について何かご意見はあるか。

(「なし」という声あり)

ではこのとおり報告することとする。

9. 産業建設委員会の取組課題について(委員間で協議)

川上委員長

先日24日に漁業関係者と意見交換会を行った。このことについて、皆にまとめて報告するようお願いしていた。30日が締め切りとなっているのでよろしく願います。今後はそれをまとめ、皆と再度協議したい。

最後になるが、陳情の表決結果は必ず本日中にタブレットへ入力してもらいたい。議案の賛否については最終日まで結構である。賛否及び反対意見はそのまま陳情者に通知し、ホームページにも記載するため、簡潔及び丁寧に記載していただくようお願いする。

以上で産業建設委員会を終了する。

[11時 44分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員長 川上 幾雄